

エコアクション 2 1
2023 年度環境経営レポート
(2022 年 10 月から 2023 年 9 月)

発行 2023 年 11 月 30 日
昭和化学株式会社

SHOWA

fine various reagents

(1) 組織の概要（事業所名、所在地、事業の概要、事業規模など）

1) 事業所名及び代表者名

事業所名	昭和化学株式会社
代表者名	代表取締役 深井一郎

2) 所在地

本社	東京都中央区日本橋本町4丁目3番地8号 TEL:03-3270-2701 FAX:03-3270-2720
茨城工場	茨城県常総市杉山1180 TEL:0297-42-4646 FAX:0297-42-8684

3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者	業務課長 櫻井 好信
本社担当連絡先	総務部 山崎 暁 e-mail: soumu@showa-chem.com
工場担当連絡先	試薬課 木村 夏樹 e-mail: n-kimura@showa-chem.com

4) 事業の概要と規模

試薬及び化学製品の製造販売

活動規模		単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
従業員	本社	人	16	16	16	16
	工場	人	22	22	22	22
工場の敷地		m ²	7,245	7,245	7,245	7,245

当社の年度は10月—9月です。

(2) 対象範囲（認証・登録範囲）、レポートの対象期間及び発行日

1) 対象範囲

昭和化学株式会社（本社、茨城工場）全組織・全活動を対象としています。

2) レポートの対象期間

2022年10月から2023年9月までの1年間

3) 発行日

2023年11月30日

(3)環境経営方針

1. 基本理念

当社は化学工業として、その事業活動を担う中で環境への負荷を理解し、地球環境及び地域環境に配慮した以下の環境方針に基づいて継続的な環境負荷の低減に努めます。

2. 環境経営方針

弊社は、化学を通して、地球環境と調和した持続可能な社会・経済の発展に貢献する企業を目指します。また、化学物質の安全な取扱についてSDSを整備し、使用する化学物質について適正管理に努めます。

(1)省資源・省エネルギー活動の推進

事業活動における、紙・水等の資源、電力・灯油等のエネルギーの使用量の節減を図り、環境負荷の低減に努めます。

(2)廃棄物の削減・分別・処理、リサイクル活動の推進

事業所から出る廃棄物を最少限に抑え、リサイクル活動を推進します。

(3)環境関連法規の遵守

環境関連の諸法規及び条例等を遵守します。

(4)化学物質の適正管理

化学物質を適正管理し、使用量を把握します。

(5)グリーン購入製品の推進及び製品・サービスにおける環境配慮

グリーン購入を推進し、自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する環境配慮に努めます。

2018年10月1日
昭和化学株式会社
代表取締役 深井一郎

(4)環境経営目標

1. 本社(東京)の環境経営目標

環境目標	単位	基準値(2019-21 年度の平均値)	2022年度 目標値	2023年度 目標値	2024年度 目標値
1) 電気使用量の低減	kWh	22,323	21,877	21,877	21,877
	kg-CO2	9,889	9,691	9,691	9,691
	-		基準値-2%	基準値-2%	基準値-2%
2) ガソリン使用量の 削減	L	2,524	2,474	2,474	2,474
	kg-CO2	5,856	5,739	5,739	5,739
	-		基準値-2%	基準値-2%	基準値-2%
3) ゴミの排出量低減	枚(袋)	108	97	97	97
	-		基準値-10%	基準値-10%	基準値-10%
4) 水使用量の削減	m ³	244	239	239	239
	-		基準値-2%	基準値-2%	基準値-2%
5) 化学物質の適正 管理	-	-	化学物質を適正管理する (15品目以上)		
6) グリーン購入の 推進	-	-	グリーン購入 の継続	グリーン購入 の継続	グリーン購入 の継続
7) SDSの適正管理	-	-	SDSを整備する		

※ 購入電力の排出係数は 0.443 kg-CO2/kWh【TEPCO:令和4年公表より採用】

(2022年度のレポートにて「購入電力の排出係数」に使用した 0.452 kg-CO2/kWh を本レポートにて修正。)

※ ガソリンの排出係数は 2.32 kg-CO2/L

※ 営業車の管理を本社3台より本社2台、工場1台に変更。それに伴い基準値も2台分の平均へ変更。

※ 2022年度より基準値を2019-21年度の平均値、目標を基準値-2(一部項目は-10)％に設定。

※ 2024年度以降は暫定目標。コロナ禍とその後の状況の変化を考慮して、基準値や目標値の変更を予定。

※ ゴミ袋1袋(70L)は9kgと設定(実測)

2. 茨城工場の環境経営目標

環境目標	単位	基準値(2019-21 年度の平均値)	2022 年度	2023 年度	2024 年度
1) 電気使用量の削減	kWh	125,854	122,078	122,078	122,078
	kg-CO2	34,862	33,816	33,816	33,816
	—		基準値-3%	基準値-3%	基準値-3%
2) 灯油使用量の削減	L	18,807	18,242	18,242	18,242
	kg-CO2	46,829	45,423	45,423	45,423
	—		基準値-3%	基準値-3%	基準値-3%
3) 上水使用量の削減	m ³	2,722	2,640	2,640	2,640
	—		基準値-3%	基準値-3%	基準値-3%
4) 井水使用量の削減	m ³	1,493	1,448	1,448	1,448
	—		基準値-3%	基準値-3%	基準値-3%
5) 産業廃棄物の削減	kg	49,353	47,872	47,872	47,872
	—		基準値-3%	基準値-3%	基準値-3%
6) 化学物質の適正 管理	—	—	化学物質を適正に管理する。		
7) 包装、容器の改善	—	—	包装、容器の改善		
8) 3S活動の実施	—	—	毎月目標を定め遂行する。		
9) 環境教育等の実施	—	—	毎月目標を定め遂行する。		

※ 購入電力の排出係数は 0.277 (kg-CO2/kWh) 【東京ガス:令和4年公表より採用】

(2022 年度のレポートにて「購入電力の排出係数」に使用した 0.474 kg-CO2/kWh を本レポートにて修正。)

※ 灯油の排出係数は 2.49 (kg-CO2/L) としました。

※ 2022 年度より基準値を 2019-21 年度の平均値、目標を基準値-3%に設定。

※ 2024 年度以降は暫定目標。コロナ禍とその後の状況の変化を考慮して、基準値や目標値の変更を予定。

(5)環境経営計画

1. 本社（東京）の環境経営計画

1) 電気使用量の低減	・ 必要の無い照明等の消灯 ・ 扉の長時間開放を止める ・ エアコンフィルターの定期洗浄 ・ エアコンの温度設定の管理 夏季 26～28 度、冬季 18～22 度 ・ エアコンの使用時間の記録
2) ガソリン使用量の低減 及び燃費改善	・ エコ運転の実施 ・ 移動時、車の乗り合わせを考慮する。 ・ 定期的な車両整備の励行。 ・ 各車の燃費を把握し、常に燃費向上に努める。
3) ゴミの排出量低減	・ 分別を徹底し、常にリサイクルを意識する ・ リサイクル運動の呼びかけを行う ・ ゴミシールの購入量、使用数の把握
4) 水使用量の低減	・ 必要以上に使いすぎない ・ 節水を心がける
5) 化学物質の適正管理	・ 化学物質を適正に管理する。 (在庫量・販売量の把握)
6) グリーン購入の推進	・ 事務用品のグリーン購入の推進
7) SDS (MSDS) の 適正管理	・ 重要度の高い物より定期的に修正する

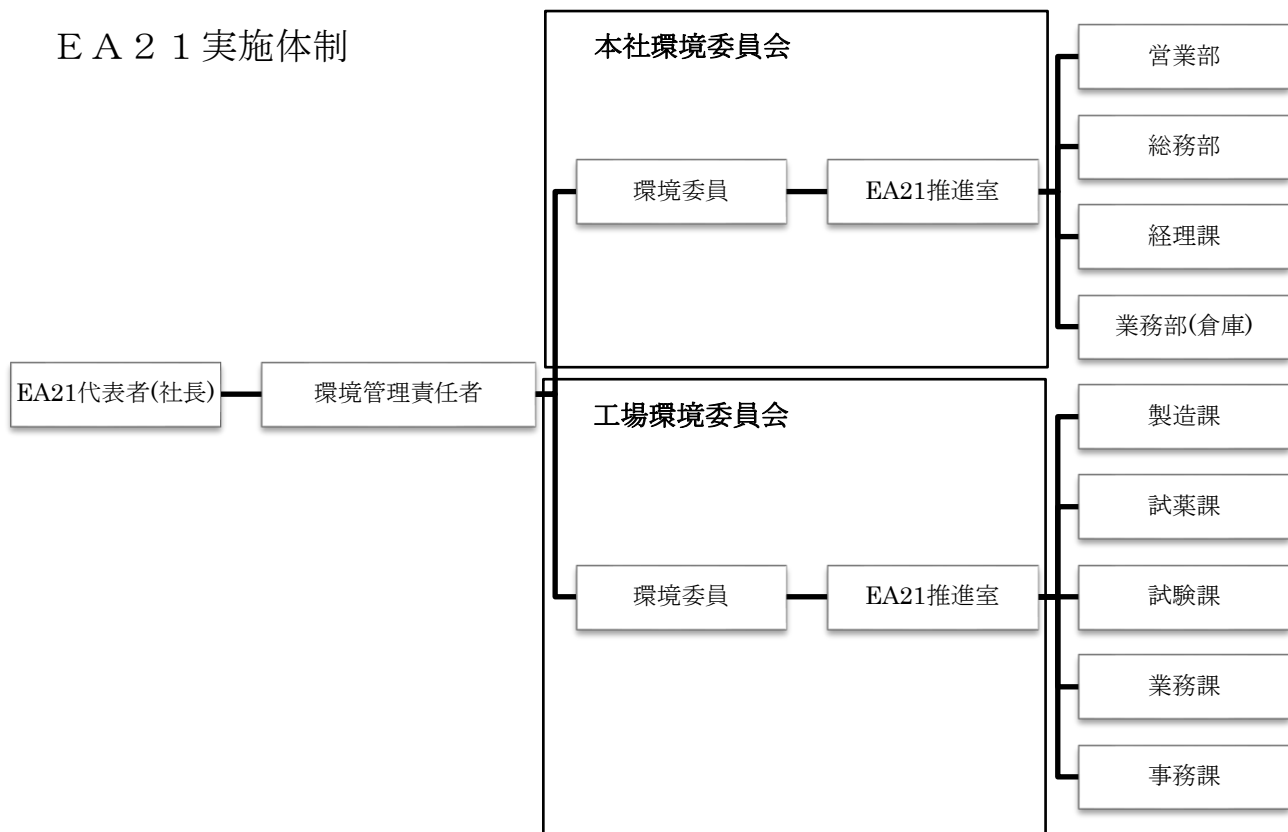
2. 工場（茨城）の環境経営計画

1) 電気使用量の削減	・節電意識の向上 ・エアコンフィルターの定期洗浄 ・攪拌機、遠心機の点検・整備 ・エアコンの使用時間の記録
2) 灯油使用量の削減	・ボイラー未使用時の運転OFF ・設備、機械の点検・整備
3) 上水使用量の把握及び削減	・従業員全員の節水意識の向上 ・水圧、元栓の調節 ・漏水の点検 ・節水コマの導入
4) 井水使用量の把握及び削減	・従業員全員の節水意識の向上 ・水圧、元栓の調節 ・漏水の点検 ・節水コマの導入
5) 産業廃棄物の削減	・在庫量の削減、産廃品の品目把握 ・分別等の呼びかけによる徹底 ・廃棄物の排出量の低減、呼びかけ
6) 化学物質の適正管理	・P R T R対象物質の管理・使用量の把握 ・P R T R対象物質使用設備の点検 ・化学物質表記の徹底 ・化学物質管理の注意点説明 ・P R T Rの申告
7) 包装、容器の改善	・通い箱の再使用の推進 ・包装容器の軽量化
8) 3 S活動の推進	・毎月の始めの目標設定と徹底 ・各棟の整理、整頓及び不用品の廃棄 ・全体清掃(照明器具等)の実施 ・構内清掃、除草の実施 ・清掃用具の点検
9) 環境教育活動の推進	・年末年始無災害運動、全国労働衛生運動の推進 ・定期健康診断、特殊健康診断の受診 ・防災訓練の実施 ・各種講習会の受講の推進 ・E A 2 1 現況報告会議の実施 ・毒劇物、危険物の取扱い説明

(6) 実施体制

2023 年 11 月 30 日作成

E A 2 1 実施体制



E A 2 1 実施体制 [役割・責任・権限]	
役職	役割・責任・権限
EA21 代表者(社長)	- 環境管理責任者の任命 - 環境経営方針の策定 - 代表者による全体評価と見直しを実施 - 経営における課題とチャンスの明確化 - 環境経営目標・環境経営計画・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	- 代表者に代わり、システムの全体の構築、運用に責任と権限を有しシステムの状況について社長に報告 - 本社、工場の環境委員長の任命
環境委員会	- 各課の環境管理担当者から構成し、定期的に会合を開き環境管理に関する事項について協議・決定し、また環境管理の実施状況を点検する 尚、委員会の内容は、環境管理責任者に報告する
環境委員	環境管理責任者の代行として、本社・工場において環境委員会の運営に当たる
EA21 推進室	- 本社と工場間の情報を共有し、システムの円滑な運営のための活動を行う - 環境負荷の実績の集計 - EA21 関連書類の保管・管理
従業員	エコアクション 21 の活動に協力する

(7) 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、 並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画

本社（東京）の環境経営目標の実績

項目	単位	基準値 (19-21 年平均)	目標値 (基準値-2%)	実績値	%	評価	来期目標 (基準値-2%)
電気	kWh	22, 323	21, 877	22, 570	+3. 2	×	21, 877
	kg-CO2	9, 889	9, 691	9, 999	+3. 2	×	9, 691
ガソリン	L	2, 524	2, 474	2, 826	+14. 2	×	2, 474
	kg-CO2	5, 856	5, 739	6, 556	+14. 2	×	5, 739
CO2 合計①	kg-CO2	15, 745	15, 430	16, 555	+7. 3	×	15, 430

都市ガス	m3	—	—	444	—	—	—
	kg-CO2	—	—	959	—	—	—
合計① +都市ガス	kg-CO2	—	—	17, 514	—	—	—

ゴミ袋	枚	108	97※	96	-1	○	97※
水	m3	244	239	281	+17. 6	×	239

化学物質の適正管理	—	—	在庫数を把握しました。	○	適正管理
グリーン購入の推進	—	—	購入 15 品目を達成	○	15 品目
S D S (M S D S) の整備	—	—	新規作成・更新数 1926	○	作成・更新

- ※ ゴミ袋のみ目標値を基準値-10%と設定する。(一枚当たりの増減が%に与える影響が大きいため)
ゴミ袋 1 枚は実測値約 9kg
- ※ 購入電力の排出係数は 0. 443 kg-CO2/kWh【TEPCO: 令和 4 年公表より採用】
- ※ ガソリンの排出係数は 2. 32 (kg-CO2/L) [34. 6*0. 0183*(44/12)] としました。
- ※ 営業車の管理 3 台より 2 台へ変更。
- ※ 都市ガスの排出係数は 2. 16 (kg-CO2/m3) を使用。
- ※ 2022 年度より基準値を 2019-21 年度の平均値、目標を基準値-2(一部項目は-10)%に設定。
- ※ 来期目標は暫定値。コロナ禍とその後の状況の変化を考慮して、目標値の変更を予定。
- ※ 計算値の誤差は小数点以下の扱いによるもの。

本社（東京）の環境経営活動の取組結果とその評価、次年度の取組内容

目標及び活動計画	取組状況	評価、次年度の取組内容
1) 電気使用量の削減（基準値－2%）		
・ 必要の無い照明等の消灯	○	目標を達成できていない。 エコ活動を始めてだいぶたっているので本社 で削減できる電気使用量の下限値に近づいて いる可能性あり？
・ エアコンフィルターの定期洗浄	○	
・ エアコンの温度設定の管理	△	
・ 電気使用量の把握、省エネ対策	○	
2) ガソリン使用量の削減（基準値－2%）		
・ エコ運転の実施	○	目標を達成できていない。 コロナ禍以降の営業活動が活発化した結果、営 業車の移動距離が増えたことが原因と思われ る
・ 移動時、車の乗り合わせを考慮する	○	
・ 定期的な車両整備の励行	○	
・ 燃費を把握し、燃費向上に努める	○	
3) ゴミ袋の使用量削減（基準値－10%）		
・ 分別の徹底、リサイクルを意識する	○	目標を達成出来た。 紙類のリサイクルが徹底されている。 来年度も引き続き同一の目標とする。
・ リサイクル運動	○	
・ 購入量、保管数、使用数の把握	○	
4) 水使用量の低減（基準値－2%）		
・ 必要以上に使いすぎない	△	目標を達成できていない。 コロナ禍も引き続き手洗い等を徹底している ことと、水漏れが原因と思われる
・ 節水を心がける	△	
5) 化学物質の適正管理		
在庫量・販売量の把握	○	化学薬品販売において在庫量の把握は 非常に重大なので常に管理している。 来年度も引き続き同一の目標とする。
6) SDS（MSDS）の適正管理		
・ 重要度の高い物から修正する	○	重要度の高い物から修正を行った。 来年度も引き続き同一の目標とする。
7) グリーン購入の推進		
・ 購入15品目以上	○	目標を達成出来た。 コピー用紙を中心に、エコマークの付いた 商品を15品目購入した。 来年度も引き続き同一の目標とする。

工場（茨城）環境経営目標の実績

項目	単位	基準値 (19-21年平均)	目標値 (基準値-3%)	実績値	%	評価	来期目標 (基準値-3%)
電気	kWh	125,854	122,078	128,447	+5.2	×	122,078
	kg-CO2	34,862	33,816	35,580	+5.2	×	33,816
灯油	L	18,807	18,242	15,362	-15.8	○	18,242
	kg-CO2	46,829	45,423	38,251	-15.8	○	45,423
ガソリン	L	1,253	1,216	1,490	+22.5	×	1,216
	kg-CO2	2,907	2,821	3,456	+22.5	×	2,821
C02 合計①	kg-CO2	84,598	82,060	77,287	-5.8	○	82,060

液化石油ガス (LPG)	kg	—	—	65	—	—	—
	kg-CO2	—	—	195	—	—	—
合計① +LPG	kg-CO2	—	—	77,482	—	—	—

上水	m3	2,722	2,640	2,279	-13.7	○	2,640
井水	m3	1,493	1,448	1,577	+8.9	×	1,448
廃棄物	kg	49,353	47,872	36,302	-24.2	○	47,872

化学物質の適正管理	—	—	漏洩、漏災事故はありませんでした。	○	適正管理、設備点検
包装、容器の改善	—	—	包装容器の変更・通箱管理のデータ化	○	包装・容器の改善 通箱の再利用推進
3S活動の推進	—	—	除草・整理整頓・清掃など環境整備の強化	○	工場内の環境 整備、巡回
環境教育活動の推進	—	—	環境意識の向上とコロナ対策	○	環境、防災意識の 高揚

※ 購入電力の排出係数は 0.277 (kg-CO2/kWh)【東京ガス:令和4年公表より採用】

※ 灯油の排出係数は 2.49(kg-CO2/L)としました。

※ 液化石油ガス(LPG)は排出係数 3.0(kg-CO2/kg)としました。

※ ガソリンの排出係数は 2.32(kg-CO2/L) [34.6*0.0183*(44/12)]としました。

※ 2022年度より基準値を 2019-21年度の平均値、目標を基準値-3%に設定。

※ 来期目標は暫定値。コロナ禍とその後の状況の変化を考慮して、目標値の変更を予定。

工場（茨城）の環境経営活動の取組結果とその評価、次年度の取組内容

目標及び活動計画	取組状況	評価、次年度の取組内容
1) 電気使用量の削減（基準年－3%）		
・ 節電意識の向上	△	使用量が目標値を達成できていない。
・ エアコンフィルターの定期洗浄	○	電気を使用する設備の老朽化が気になる。
・ 攪拌機、遠心機の点検・整備	○	来年度も同一の目標とし達成を目指す。
2) 灯油使用量の削減（基準年－3%）		
・ ボイラー未使用時の運転OFF	○	使用量の目標値は達成できている。
・ 設備、機械の点検・整備	○	管理を徹底して来年度も同一目標とする。
3) 上水使用量の削減（基準年－3%）		
・ 従業員全員の節水意識の向上	○	使用量の目標値は達成できている。
・ 水圧、元栓の調節	△	生産量との原単位でも達成できている。
・ 漏水の点検	○	来年度も生産水以外での節水を徹底し同一の
・ 節水コマの導入	△	目標で進めていく。
4) 井水使用量の削減（基準年－3%）		
・ 従業員全員の節水意識の向上	○	使用量・原単位目標を達成できていない。
・ 水圧、元栓の調節	○	ボイラーで使用する水の漏水が原因と思われる。
・ 漏水の点検	△	漏水の点検を徹底し来年度も同一目標で達成を目指す。
・ 節水コマの導入	△	
5) 産業廃棄物の削減（基準年－3%）		
・ 在庫量の適正化、廃薬品の品目の把握	○	在庫量の適正化、廃薬品の品目把握、分別等の徹底を実施し目標値を達成できた。
・ 分別等の徹底	○	廃薬品の削減を重視し来年度も達成を目指す。
6) 化学物質の適正管理		
・ 在庫量、使用量の把握	○	在庫量、使用量の管理は常に徹底している。
・ PRTR対象物質使用施設の点検	○	PRTRの申告漏れがないことを確認した。
・ 化学物質管理注意点の説明	○	来年度も保管場所や在庫量など化学物質の
・ PRTRの申告	○	管理を徹底し同一目標で取り組みます。
・ 化学物質表記の徹底	○	
7) 包装、容器の改善		
・ 包装の簡易化の推進	△	包装容器の改善を1品目実施した。
・ 通い箱の再使用	○	来年度も包装容器を改善に取り組み通い箱の推進にも取り組んでいく。
8) 3S活動の推進		
・ 各棟の整理、整頓及び不用品の廃棄	○	毎月計画を立て整理整頓、構内清掃や除草など
・ 全体清掃(照明器具等)の実施	○	3S活動を実施しました。
・ 構内清掃、除草の実施	○	清潔で安全な工場を目指し来年度も同一目標
・ 清掃用具の点検	○	で取り組みます。

目標及び活動計画	取組 状況	評価、来年度の取組内容
9) 環境教育活動の推進		
・ 無災害運動、全国労働衛生運動の推進	○	3 種(消化・地震・薬品漏洩)の防災対応訓練、 2 種の健康診断を実施した。 来年度も災害ゼロを継続していき安全な作業 環境づくりを重視していく。
・ 定期、特殊健康診断の実施	○	
・ 防災訓練の実施	○	
・ 各種講習会の受講の推進	○	
・ E A 2 1 現況報告会議の実施	○	
・ 毒劇物・危険物の取扱の説明	○	

全社環境経営目標の実績一覧（全社 CO2 排出量）

電気・ガソリン・灯油

項目	事業所	単位	目標値	実績値	%	評価
電気	本社	kWh	21,877	22,570	+3.2	×
		kg-CO2	9,691	9,999	+3.2	×
	工場	kWh	122,078	128,447	+5.2	×
		kg-CO2	33,816	35,580	+5.2	×
	全社	kWh	143,955	151,017	+4.9	×
		kg-CO2	43,507	45,579	+4.8	×
ガソリン	本社	L	2,474	2,826	+14.2	×
		kg-CO2	5,739	6,556	+14.2	×
	工場	L	1,216	1,490	+22.5	×
		kg-CO2	2,821	3,456	+22.5	×
	全社	L	3,690	4,316	+17.0	×
		kg-CO2	8,560	10,012	+17.0	×
灯油	本社	L	—	—	—	—
		kg-CO2	—	—	—	—
	工場	L	18,242	15,362	-15.8	○
		kg-CO2	45,423	38,251	-15.8	○
	全社	L	18,242	15,362	-15.8	○
		kg-CO2	45,423	38,251	-15.8	○

項目	事業所	単位	目標値	実績値	%	評価
各 CO2 合計① (電+ガ+灯)	本社	kg-CO2	15,430	16,555	+7.3	×
	工場	kg-CO2	82,060	77,287	-5.8	○
	全社	kg-CO2	97,490	93,842	-3.7	○

都市ガス・液化石油ガス(実績値のみ記載。都市ガスは本社、液化石油ガスは工場のみ計測)

項目	事業所	単位	目標値	実績値	%	評価
都市ガス	本社	m3	—	444	—	—
		kg-CO2	—	959	—	—
液化石油ガス	工場	kg	—	65	—	—
		kg-CO2	—	195	—	—

項目	事業所	単位	目標値	実績値	%	評価
全 CO2 合計 (①+都+液)	全社	kg-CO2	—	94,996	—	—

(8) 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反は見つかりませんでした。
なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

適用環境関連法規等	適用される事項 (事業活動・施設・物質など)	遵守状況の確認・評価
中央区廃棄物条例	事業系一般廃棄物	事業系有料ごみ処理券使用
毒物及び劇物取締法	毒劇物一般販売業登録票	届出提出
毒物及び劇物取締法	毒劇物輸入業者登録票	届出提出
消防法(第十一条)	危険物第1種販売取扱所	届出提出・掲示板設置
消防法(第十七条三の二)	消火器	年次点検・届出提出
消防法(第十一条)	危険物一般取扱所	届出提出・掲示板設置
消防法(第十一条)	危険物屋内貯蔵所	届出提出・掲示板設置
消防法(第十一条)	危険物製造所	届出提出・掲示板設置
浄化槽法(第四条)	放流水の水質	水質検査の実施
廃棄物処理法	契約書・許可証・マニフェスト	状況報告書の提出
フロン排出抑制法	特定製品の管理	簡易点検の実施
茨城県生活安全に関する条例	排水量、有害物質使用量	記録及び保存の確認

(9) 代表者による全体評価と見直しの結果

全体：

本年はコロナの影響が大分減っている活動期間ではあると思いますが、各基準値がコロナ禍の期間を基準として設定されているため、活動評価に難しいところもありました。次年度で基準の変更等の対応を行い、より現実的な基準値に変更する必要があると感じます。

本社：

電気及びガソリンが目標を超過する結果となりました。

営業活動の活発化が主な原因だと考えておりますが、CO2 排出抑制とのバランスをどの様にとっていくかが今後の課題だと思います。

工場：

電気及びガソリンが目標を達成できませんでした。

特に電気の使用量は大きく削減できる点が少ないため日々の節電を重視していき、超過割合が気になるガソリンは前年度から目標を設定している為、今後の目標値設定をどうするかが課題だと思います。